

簿記3級検定試験 問5想定問題①『財務諸表』

決算整理前残高試算表から決算整理仕訳を処理し、貸借対照表・損益計算書を作成しなさい。
平成10年04月01日から平成11年03月31日までの1年間とする。

資料①

決算整理前残高試算表

平成11年3月31日

借方	勘定科目	貸方
8,000	現金	
56,000	当座預金	
70,000	売掛金	
10,000	売買目的有価証券	
1,900	仮払金	
50,000	繰越所品	
100,000	備品	
	買掛金	40,000
	仮受金	5,000
	借入金	25,000
	貸倒引当金	1,600
	備品減価償却累計額	45,000
	資本金	180,000
	売上	470,000
420,000	仕入	
27,000	給料	
20,000	支払家賃	
2,200	旅費交通費	
1,200	支払保険料	
300	支払利息	
766,600		766,600

資料②

- ① 現金の実際手許有高は7,500円であった。ただし、帳簿有高との不一致の原因は不明である。
- ② 売掛金の期末残高に対して2%の貸倒引当金を差額補充法により計上する。
- ③ 売買目的有価証券の期末時価は、9,500円であり、評価替えを行う。
- ④ 仮払金金額は、商品注文時に手付金として支払った代金を仕訳したものであり、期末現在商品は納品されていない。
- ⑤ 期末商品棚卸高は45,000円であった。
- ⑥ 備品については定額法によって減価償却を行う。耐用年数は20年で、備品の残存価額は取得原価の10%である。
- ⑦ 支払家賃の一部は、平成10年10月01日に駐車場で賃借したものである。
賃料は1ヶ月1,500円で、毎年05月01日と11月01日に向こう6ヶ月分を支払っている。
- ⑧ 借入金は平成10年12月01日に、利率年3%で借り入れたものである。
その利息は毎年01月末日と07月末日に、各半年分を後払いする。
- ⑨ 仮受金は売掛金の回収代金として受け取ったものであることが判明した。
- ⑩ 仕入金額の中に、商品注文時に手付金として支払った2,000円が含まれている事が判明した。
その手付金にかかる商品はまだ納品されていない。

解答用紙

貸借対照表

平成11年3月31日

勘定科目	金額	勘定科目	金額
現金		買掛金	
当座預金		借入金	
売掛金		貸倒引当金	
売買目的有価証券		()利息	
商品		備品減価償却累計額	
備品		資本金	
()			
()家賃			

損益計算書

平成11年3月31日

勘定科目	金額	勘定科目	金額
売上原価		売上高	
給料		()	
支払家賃			
旅費交通費			
支払保険料			
支払利息			
有価証券()			
減価償却費			
雑()			

解答

貸借対照表

平成11年3月31日

勘定科目	金額	勘定科目	金額
現金	7,500	買掛金	40,000
当座預金	56,000	借入金	25,000
売掛金	65,000	貸倒引当金	1,300
売買目的有価証券	9,500	(未払)利息	125
商品	45,000	備品減価償却累計額	49,500
備品	100,000	資本金	180,000
(前払金)	3,900		
(前払)家賃	1,500		
当期純(損失)	7,525		
	295,925		295,925

損益計算書

平成11年3月31日

勘定科目	金額	勘定科目	金額
売上原価	423,000	売上高	470,000
給料	27,000	(貸倒引当金戻入)	300
支払家賃	18,500	当期純(損失)	7,525
旅費交通費	2,200		
支払保険料	1,200		
支払利息	425		
有価証券(評価損)	500		
減価償却費	4,500		
雑(損)	500		
	477,825		477,825

解答仕訳

No	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	雑損	500	現金	500
②	貸倒引当金	300	貸倒引当金戻入	300
③	有価証券評価損	500	売買目的有価証券	500
④	前払金	1,900	仮払金	1,900
⑤	仕入	50,000	繰越商品	50,000
	繰越商品	45,000	仕入	45,000
⑥	減価償却費	4,500	備品減価償却累計額	4,500
⑦	前払家賃	1,500	支払家賃	1,500
⑧	支払利息	125	未払利息	125
⑨	仮受金	5,000	売掛金	5,000
⑩	前払金	2,000	仕入	2,000
	借方合計	111,325	貸方合計	111,325

解答解説

- ① 現金の実際手許有高は7,500円であった。ただし、帳簿有高との不一致の原因は不明である。

不一致の原因が不明なので、雑損か雑収入で処理をする。
帳簿残高よりも手元残高が少ないので、500円の損が発生しているとする。

雑損	500	現金	500
----	-----	----	-----

- ② 売掛金の期末残高に対して2%の貸倒引当金を差額補充法により計上する。

試算表では50,000円で表記されているが、問題⑨で売掛金が減ったため、計算根拠となる売掛金が減る。
ついて、問②を解くのは、問⑨を解いてからでないと正解はでない。

$70,000 - 5,000$ (問⑨により訂正) = 65,000で貸倒引当金を計算する。

$65,000 \times 2\% = 1,300$

試算表上の貸倒引当金は1,600円なので、300円が多いこととなる。

つまり貸倒引当金を減額する仕訳を行うわけです。

貸倒引当金	300	貸倒引当金戻入	300
-------	-----	---------	-----

- ③ 売買目的有価証券の期末時価は、9,500円であり、評価替えを行う。

試算表では10,000円で表記されているので、500円の評価損が発生しているのがわかる。

有価証券評価損	500	売買目的有価証券	500
---------	-----	----------	-----

- ④ 仮払金額は、商品注文時に手付金として支払った代金を仕訳したものであり、期末現在商品は納品されていない。

商品注文時に手付金で支払ったお金は、仮払金ではなく、前払金の勘定科目を使う。

前払金	1,900	仮払金	1,900
-----	-------	-----	-------

- ⑤ 期末商品棚卸高は45,000円であった。

試算表に表示されている繰越商品「50,000」は当期首における繰越商品金額です。

つまり、前期末における繰越商品となります。

前期末で残った商品は、今期に販売しますので、費用(仕入)になります。

よって、以下の振替仕訳が必要となります。

仕入	50,000	繰越商品	50,000
----	--------	------	--------

それに対して今期末における商品残高は、今期の費用(仕入)にならず来期に持ち越されます。

よって、以下の振替仕訳が必要となります。

繰越商品	45,000	仕入	45,000
------	--------	----	--------

- ⑥ 備品については定額法によって減価償却を行う。耐用年数は10年で、備品の残存価額は取得原価の10%である。

$100,000(\text{取得原価}) \times 0.9(\text{残存価格を引いた金額}) \div 20\text{年}(\text{耐用年数}) = 4,500\text{円}$

減価償却費	4,500	備品減価償却累計額	4,500
-------	-------	-----------	-------

- ⑦ 支払家賃の一部は、平成10年10月01日に駐車場で賃借したものである。

賃料は1ヶ月1,500円で、毎年05月01日と11月01日に向こう6ヶ月分を支払っている。

賃料は前払いであるという事を読み取る。

11月01日に6ヶ月分支払っているので、今期分は11、12、1、2、3の5か月分。

1ヶ月分は来期分の賃料となるので、その分が前払い分となる。

前払家賃	1,500	支払家賃	1,500
------	-------	------	-------

- ⑧ 借入金は平成10年12月01日に、利率年3%で借り入れたものである。

その利息は毎年01月末日と07月末日に、各半年分を後払いする。

利息は後払いであるという事を読み取る。

2、3の2ヶ月分は期末時点で未払となっている。

$25,000(\text{借入金}) \times 3\%(\text{利率}) \div 12\text{ヶ月} \times 2\text{ヶ月} = 125$

支払利息	125	未払利息	125
------	-----	------	-----

⑨ 仮受金は売掛金の回収代金として受け取ったものであることが判明した。

訂正仕訳の問題です。

当初回収したときの仕訳を推定します。

誤仕訳

現金 or 当座預金	5,000	仮受金	5,000
------------	-------	-----	-------

問題上では、何で回収されたかは書かれていません。

ですが、問題を解く分には問題ありません。

訂正したい部分は貸方勘定の「仮受金」です。

「売掛金」が減って、「現金 or 当座預金」が増えた仕訳をします。

正仕訳

現金 or 当座預金	5,000	売掛金	5,000
------------	-------	-----	-------

「現金 or 当座預金」は変わらず、「仮受金」を「売掛金」に振り返る仕訳をします。

訂正仕訳

仮受金	5,000	売掛金	5,000
-----	-------	-----	-------

⑩ 仕入金額の中に、商品注文時に手付金として支払った2,000円が含まれている事が判明した。

その手付金にかかる商品はまだ納品されていない。

という事は、「仕入」ではなく、「前払金」です。

手付金を支払った時の仕訳を推定します。

誤仕訳

仕入	2,000	現金 or 当座預金	2,000
----	-------	------------	-------

何で支払ったかは不明ですが、問題を解く分には支障はありません。

訂正したい部分は借方勘定の「仕入」です。

正解仕訳

前払金	2,000	現金 or 当座預金	2,000
-----	-------	------------	-------

訂正仕訳

前払金	2,000	仕入	2,000
-----	-------	----	-------